



長野市公共施設マネジメント ニュース・レター Vol. 12 令和2年3月 長野市



第
12
号

城山公園再整備の基本構想が策定されます

現在、園内では築50年を迎えた県立信濃美術館の改築と同敷地の公園の再整備が進められています。この整備を契機として、城山公園全体の再整備の方向性を示す基本構想の検討を行い、令和2年4月策定予定です。

城山公園内には様々な公共施設がありますので、公園全体の基本構想を踏まえて、各施設の在り方を検討していくことになります。

今回の検討に当たり「サウンディング型市場調査」を実施し、対話の中で民間事業者の知恵をお聞きする中で、公園の立地や眺望など、高い市場性を有するとの意見をいただきました。今後、公園の再整備を段階的に進めていく際には、パークPFI制度※も含めた民間活力の活用を積極的に検討してまいります。



再整備イメージ図

■基本構想（案）の概要

城山公園は開設から120年が経とうとしていますが、昔から人々を惹きつけてきた公園がこの先も愛され、親しまれ、そして誇れる公園として継いでいけるよう、50年先を見据えた将来像を示します。

コンセプト

「文化と芸術と交流の杜」

整備方針

- ☞ 文化と芸術の創造
- ☞ レクリエーション機能の充実
- ☞ みどり豊かな美しい公園の育成

3つの強化項目

- ▷ 防災機能の強化
- ▷ 駐車場の整備
- ▷ アクセス性の向上

【基本構想図】

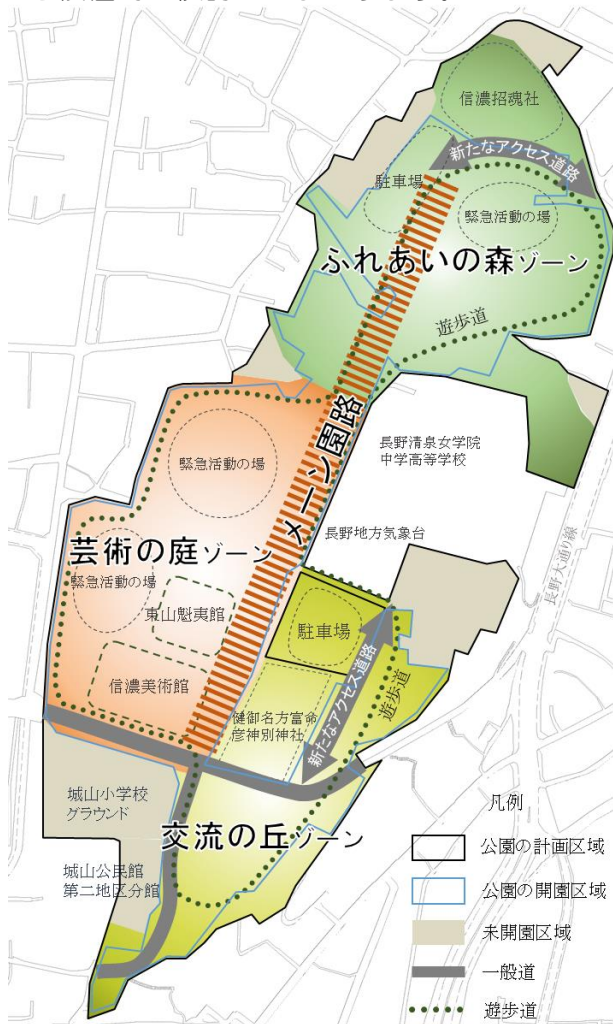
公園がもっている特徴や立地条件などを踏まえて、公園を3つの大きなゾーンに分け、それぞれのゾーンにテーマを持たせて、そのテーマに沿った公園整備を進めていくことで統一感のある公園をつくります。

中心道路をメイン園路として遊歩道化することで、利用者が安全で快適に過ごせるようにします。また、新たなアクセス道路を想定することで園内交通を円滑にします。

※パークPFI（公募設置管理制度）とは

都市公園の魅力向上、施設整備・更新を持続的に進めるためには、公共だけでなく民間資金の活用により、市民利用を一層推進することが必要なことから、制度化された新たな公園整備の手法です。

飲食店、売店等の公園施設の設置又は管理を行う民間事業者を公募により選定し、事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備（園路や広場の整備等）に還元する事業者にインセンティブが与えられることにより、公園の利用者の利便性や快適性が高まります。



<公園内にある主な施設>

城山動物園、城山市民プール、城山テニスコート、少年科学センター、城山公民館、旧蔵春閣、立体駐車場、城山小学校（開園区域外）、城山公民館第二地区分館（開園区域外）

「(仮称)山の駅 飯綱高原」の交渉権者が決まりました

(仮称)山の駅飯綱高原等整備運営事業については、前号のニュースレターでもお知らせしたところですが、施設を建てた後の管理運営を見据えた、より良い設計・施工が期待できる新たな公民連携（PPP）手法として、DB（Design=設計・Build=建設）方式+指定管理者制度手法を導入しました。

施設の設計者、施工者、運営者となる事業者グループを作ってください、プロポーザルに参加いただく募集を行ったところ、4グループから応募をいただき、長野市PFI事業等審査委員会における審査・選定を経て、令和2年1月10日に交渉権者と次点者を決定しました。応募いただいた事業者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

山の駅は、飯綱高原のグリーンシーズンの新たな産業と観光の拠点となる施設で、隣接する大座法師池やリニューアルするキャンプ場と一体的に運営することにより地域の活性化につなげていくことを目指します。

山の駅の中には、お子さんが遊べる屋内アクティビティ施設（大型遊具）やレストラン、農産物直売所などが整備されます。令和4年4月にオープン予定ですので、完成したら、ご家族皆さんで、ぜひお出かけください。

キャンプ場は令和3年4月にリニューアルオープンしますので、こちらもお楽しみに。



交渉権者：eternal（エターナル）グループ
代表者（施工者） 千広建設株式会社
構成員（設計者） 新日本設計株式会社
構成員（運営者） eternal story株式会社

■ 交渉権者の企画提案の概要

○施設整備概要（技術提案であり今後変更があります）

- 山の駅 敷地：2,850㎡
床面積：約920㎡（グローサラント棟：約460㎡、アクティビティ棟：約460㎡）
- キャンプ場 既存バンガロー解体デイキャンプサイト整備、既存炊事場一部解体及び新設、既存ログキャビンデッキスペース設置 等
- 駐車場 既存駐車場拡張
（113台⇒184台 大型2台含む）

○新たな事業者による運営期間

- 山の駅 令和4年4月～令和13年3月
- キャンプ場 令和3年4月～令和13年3月



大座法師池



キャンプ場

■ 長野市PFI事業等審査委員会における審査

今回のプロポーザルに関する事業者選定は、下表のとおり長野市PFI事業等審査委員会（委員長 寺内美紀子信州大学工学部教授）で、企画・設計・運営の審査基準に基づく総合的なご審議をいただきました。

	開催日	主な審査内容等
第1回	令和元年7月18日	委員委嘱、委員会の運営及び審査対象事業の概要について
第2回	令和元年8月23日	山の駅整備予定地等の現地視察、飯綱高原観光施設活用検討会について
第3回	令和元年9月12日	募集要項及び要求水準書（案）について
第4回	令和元年9月17日	交渉権者の選定方法及び審査基準（案）について
第5回	令和元年12月17日	企画提案書の審査（書類審査による中間評価）
第6回	令和2年1月7日	提案4グループによるプレゼンテーション及びヒアリング 審査・選定（優先交渉権者及び次点者を選定）

今回の事業は、平成30年秋に実施した「サウンディング型市場調査」で得られた、飯綱高原の市場性等の情報を活用しながら進めている事業です。これからも官民対話などの公民連携を推進し、民間活力を活用した公共施設マネジメントを推進してまいります。



BaSS・シンポジウムで長野市の取組を報告しました

11月10日（日）台東区役所で開催された、第4回シンポジウムに参加し、協力自治体の一つとして、長野市からも、各地区で開催した、公共施設について考える市民ワークショップの取組等について報告を行いました。

今回のシンポジウムは「住民参加による公共施設整備の未来—BaSSプロジェクトの総括と今後の課題」と題して開催されたもので、研究代表者の前橋工科大学の堤洋樹准教授からの全体的な成果報告の後、4つの協力自治体からの報告に続いて、元池田市長の倉田薫氏、東洋大学客員教授の南学氏を交えてのパネルディスカッションが行われました。

堤先生の全体報告では、プロジェクトの活動経過や成果や課題についての説明があり「BaSSの研究は道半ばであるが、今後はNPO法人リデザインマネジメント研究所（RDMラボ）が、本質的な公共資産経営の支援組織としての活動を引き継いでいく」との決意を述べられました。

パネルディスカッションの中では、南客員教授から「公共施設の現状は利用者数だけでなく、利用者が誰なのかまで把握すること。住民参加という聞こえは良いが、声の大きな人の参加になっていないか。マネジメントを実現するには庁内の縦割りを乗り越える体制が必要で、関係課が多いほど本気度が見える。プロジェクトメンバーには辞令を出して兼務にしないと実効性がない」などのアドバイスがありました。

倉田氏からは「まずは職員、そして市長・議会も意識改革が必要。庁内プロジェクトにメンバーを出すと本業がおろそかになる。そのフォローを考える必要がある」などのコメントがありました。



堤先生には、平成28年度の芋井地区ワークショップ、翌年の篠ノ井地区ワークショップ、さらに平成30年1月に長野市芸術館で開催した第1回公共施設マネジメントシンポジウムに協力をいただきました。

BaSSメンバーの日本PFI・PPP協会の寺沢弘樹部長にも、公民連携について度々、講演いただくなど、BaSSとの連携は本市の公共施設マネジメント推進に大きな効果があったと考えています。

堤先生はじめ、メンバーの皆さまに深く感謝を申し上げます。

BaSSプロジェクトとは：国立研究開発法人科学技術振興機構JST/RISTEX持続可能な多世代共創社会のデザイン研究開発領域の「地域を持続可能にする公共資産経営の支援体制の構築」プロジェクトとして、平成28年10月から3年間の研究としてスタートし、10自治体以上で実践的検証を行ってきました。

研究代表者の堤洋樹准教授には「公共施設マネジメントのススメ（建築資料研究社）」「公共施設のしまいかた（学芸出版社）」等の著書があります。



市立長野中学校での授業

12月11日、12日に市立長野中学校の3年生2学級の生徒の皆さんを対象に、公共施設マネジメントを考える公開授業が行われました。（担当者：社会科 山崎 慎也先生）まず、一人ひとりが年齢3区分別人口割合や地区別人口、施設を分類別にまとめた資料を読み解きました。その上で、小グループ毎に「人口減少により市の税収の減少が見込まれる中で、どの施設から優先的に縮減を考えていけばよいのか」について効率性と公正性の視点で考えをまとめ発表しました。

結果は、「施設を複合化・集約化ができる」「民間が行うこともできる」などの理由で公民館、小中学校、市営住宅が上位を占めました。逆に「長野への観光客が減少してしまう」「象徴的な施設」などの理由で観光・レジャー施設、スポーツ施設は、残す意見が多く見られました。振り返りでは「どの施設も必要で、どれを減らすかを考えるのは難しかった。」「何を減らすかより、何を残していくかを考える方が考えやすかった」などの感想がありました。

今後も出前授業など、若者が公共施設を考えるきっかけとなる場を設けていきたいと考えています。



台風第19号災害からの復旧・復興について

令和元年10月12日に上陸した台風第19号により、千曲川流域の広い範囲に甚大な水害が発生しました。浸水面積1,541ha、り災証明書の交付件数は3,824件（令和2年1月31日時点）、全壊1,033戸、大規模半壊351戸、半壊1,288戸という未曾有の災害であり、被災した皆さまに心からお見舞い申し上げます。

国・県・中核市をはじめとする自治体など、多くの関係機関の支援と、全国からのべ7万人を超えるボランティアの皆さまの協力、そして地域住民の皆さまのご努力により、一歩ずつ生活再建など復旧が進められています。

現在、復興計画の策定が進められていますが、関係機関との協力により堤防や排水機場の復旧等を実施し、再び今回のような災害が起きないように抜本的な治水対策が求められています。

公共施設も多く被災し、78施設で一部損壊以上の被害がありました。

床下浸水等の比較的被災の程度が軽い公共施設は、既に従前どおりの市民サービスを提供していますが、長沼地区、豊野地区など、特に被害が大きい公共施設については、仮施設等により早期の機能回復を図っています。

被災した公共施設については、今後の災害に備えて、長野市公共施設等総合管理計画と整合を図りながら、施設の長寿命化や、防災・減災に資する公共施設の機能強化を検討します。



濁流が直撃した長沼交流センター



園庭が土砂で埋まった長沼保育園



壁と床が流された長沼体育館

■右写真の3施設以外の床上浸水以上の主な施設

長沼支所、豊野支所、東北中学校、松代中学校、長沼児童センター、豊野体育館、東部浄化センター、西沖浄水場、市営住宅沖団地、豊野老人福祉センター、長沼分団詰所、排水機場（多数）

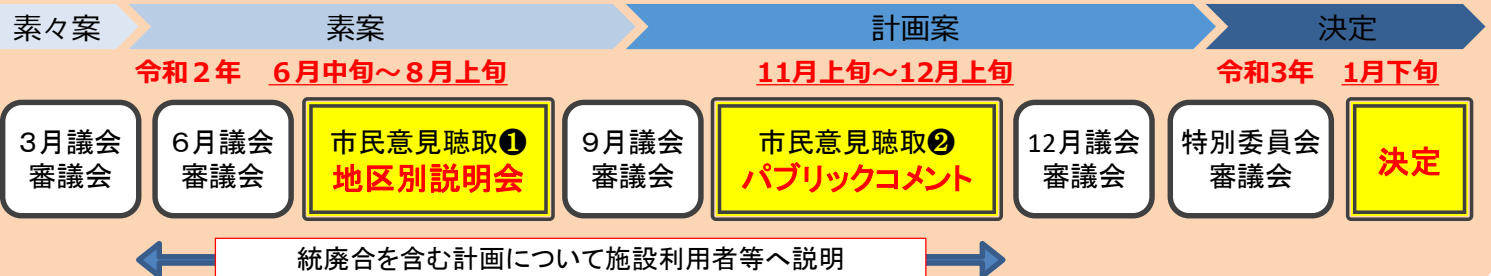
個別施設計画への市民意見をお聞きします

人口が減少する中で、公共施設を適切な状態で将来にわたり維持していくためには、施設総量の縮減と適正配置や計画的な長寿命化を進めていく必要があります。そのため、個々の施設の具体的な対応方針を定める計画として、建築物の「個別施設計画」を令和2年度中に策定します。

計画は施設分野ごとに策定し、点検・診断によって得られた個別施設の状態などの施設評価の考え方や施設毎の今後10年間の改修・更新・集約化等といった建物の対策を示す予定です。

◆策定スケジュール（案）

※令和2年2月現在の日程です。都合により変更する場合があります。



◆皆さまのご意見をお聞かせください

計画策定は、議会や審議会（公共施設適正化検討委員会）の意見をお聞きしながら進めます。特に統廃合を含む施設の計画については、利用者や地域の皆さまに計画の内容を説明し、皆さまの声をお聞きします。

◆今までのニュースレターや公共施設マネジメントの情報は、HPへ！
【長野市ホームページ＞組織で探す＞公共施設マネジメント推進課】



公共施設マネジメント推進に対する
皆さまのご意見をお聞かせください。
次号もお楽しみに！

長野市 総務部 公有財産活用局 公共施設マネジメント推進課

〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
Tel : 026-224-7592 Fax : 026-224-7964
E-mail : koukyou@city.nagano.lg.jp

◆挿入キャラクター「ミーコ」の作画は、長野俊英高等学校 漫画研究部に協力していただきました。